

平成15年度 文学部 授業計画表[syllabus]

科目名 卒業研究 I (生活) (英文名) Graduation Research I (Life Environment Studies)	2単位	(ふりがな) こみやま きよこ 担当者 小宮山 潔子 e-mail kkomiya@kokushikan.ac.jp
授業のねらいと概要: 生活科全般への理解を深め、生活科の実践力を身につけること。同時に自分の関心、興味を整理、分析して卒業論文のテーマを決め、とりかかること。		
教科書: 小宮山潔子「生活科教育の展開」(学文社)		
評価法: レポート(50%)、報告や実践の内容、態度(50%)		

【授業計画】

回数	講義テーマと概要
<春期> 第1回	自己紹介、打ち合わせ。自分が興味をもっていること、生活科に関する研究希望事項など。今後の予定について。
第2回	自分の生活科年間計画を作成。教材や方法についての独自性、工夫を期待。「探検」に関する授業について。生活科Q&A
第3回	「飼育・栽培」「自分と家族」「公共施設」のそれぞれに関する授業について。生活科Q&A
第4回	「季節と地域の行事」「制作と遊び」「自分への気づき」それぞれに関する授業について。生活科Q&A
第5回	「私の生活科授業」を順番に報告、実践。当番が計画した授業を実際にやってみる。その後反省会を含めて話し合う検討会
第6回	「私の生活科授業」を順番に報告、実践。当番が計画した授業を実際にやってみる。その後反省会を含めて話し合う検討会
第7回	「私の生活科授業」を順番に報告、実践。当番が計画した授業を実際にやってみる。その後反省会を含めて話し合う検討会
第8回	「私の生活科授業」を順番に報告、実践。当番が計画した授業を実際にやってみる。その後反省会を含めて話し合う検討会
第9回	「私の生活科授業」を順番に報告、実践。当番が計画した授業を実際にやってみる。その後反省会を含めて話し合う検討会
第10回	指導計画作成上の配慮事項。地域の人々、社会及び自然を生かし、それらを一体的に扱う学習活動の工夫について。
第11回	指導計画作成上の配慮事項。自分と地域とのかかわりが具体的に把握できる学習活動の工夫について。
第12回	指導計画作成上の配慮事項。生活上必要な習慣や技能の指導のあり方、及び他教科との関連の図り方について。
<秋期> 第1回	卒業論文について。テーマを検討。友人のテーマについても話し合い、助言し合う。
第2回	日本生活科・総合的学習教育学会での研究授業報告 モデル指導案の検討。
第3回	「ゆとりある指導計画」の意味。具体的な活動や体験のための時間、主体的な活動のための空間、対象にかかわる心理的なゆとりの3視点から考える。
第4回	「地球環境の理解」のあり方について。教師自身の地域観察や調査。その結果としての人材・教材マップや生活科暦の作成。
第5回	生活科授業の実際を見学 研究授業発表校に出掛けて授業を見学する。見るポイントを決めて行くこと。レポート提出。
第6回	見学した研究授業に関して報告、検討 研究授業の指導案を検討。それを基礎に各自の指導案を作成。
第7回	卒研生活ゼミ研修旅行について打ち合わせ 各係を分担し、交渉、計画、連絡係を確認。「討論」の時間のためのテーマと係を決定
第8回	卒研ゼミ研修旅行 自由で自主的な体験活動とする。「討論」の時間を有意義なものとする。
第9回	「授業時数の適切な割り振り」について。他教科との関連、学校の実態や時間割編成、地域の行事等を加味した弾力的な運用。
第10回	「児童理解の徹底」について。児童の興味・関心、これまでの体験、道具などを使う技能、家庭実態、友人、表情、つぶやきなどの活用。
第11回	「多様な活動や協力的な指導体制の工夫」について。校内の人々、保護者、地域の人々、公共機関の人々等との連携の工夫。
第12回	卒業論文について 各自の論文について個別面接